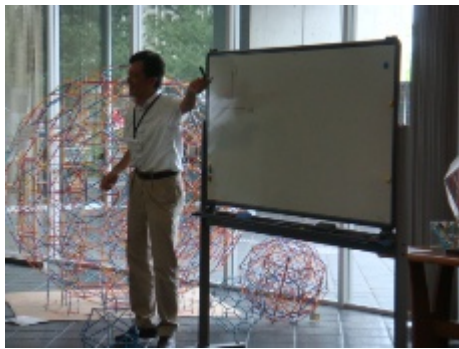


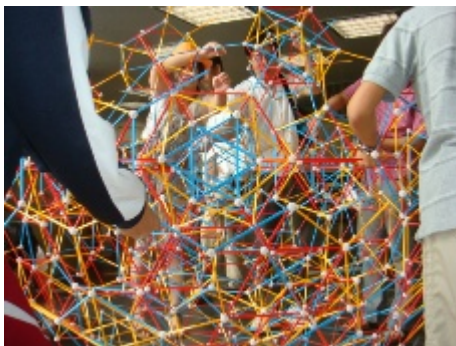
「さよなら切頂 600 胞体」
京都大学総合博物館ワークショップ

2010年8月8日
前畑 典子

2年半前の2008年1月6日、ジョージ・ハート先生が来日され、京都大学総合博物館で立木先生と一緒にワークショップをしてくださった切頂 600 胞体をいよいよ解体する時が来たというお知らせがあり、感慨深く参加させていただきました。すぐに解体するのはもったいないので、「Rectified 600 Cell」に一度作り直すワークショップをして、それから解体しましょう、ということでした。



朝9時半、博物館のロビーには約30名ほどの人が集まり、立木先生のお話で始めました。先生は、「2年半の間、博物館で作った切頂 600 胞体を眺めると色々大事なことが分かってきました」と話され、多胞体について詳しく、分かりやすく教えてくださいました。立木先生は、展示している場所にも、ホームページにも、「ジョージ・ハート先生のワークショップ Zome ツールによる切頂 600 胞体」という分かりやすい解説文を書いておられますが、現実に目で見ることのできない4次元の図形の3次元への射影についてご説明いただきました。



10時半ごろ、ユニットごとに取り外す作業が始まりました。2年半前にワークショップでみなさんと作ったユニットをそのままの形で外していくのです。果たして、ユニットを崩さずにうまく分解できるだろうかと内心不安でしたが、先生のご指導で見事にユニットに分け、以前床に並んだように、4種類のユニットがきれいに並べ分けられました。それを、今度は逆に組み立てていくのです。どこに何を付けていくのかを立木先生と助手の塚本さんにお聞きしながら作業が進み、午後一時、ようやく600-120胞体が完成しました。前の切頂600胞体も美しかったです、このRectified 600胞体も密度の高い安定した美しさです。



立木先生は、この日の午後はホールで、「イマジナリー・キューブ」のワークショップをされましたが、ゾムツールの余った部材で120胞体も作ってみてくださいということで、塚本さんを中心に4人で120胞体を作りました。これは、一時間ほどで完成しました。

で、最終的な解体作業はお預けになり、作品は暫く博物館の地下に保管されることになりました。皆さんと作った切頂600胞体はなくなりましたが、その時作ったままのユニットが600-120胞体に生まれ変わり、思いがけず120胞体のおまけまで作れて、家族が増えた感じです。こうなると、6つあるという他の正多胞体も全部作って並べてみたくなりますね。上の写真は、8月8日、京都大学総合博物館のロビーに3つ並んだ2つの600胞体（ひとつは以前からあった小さなモデル）と120胞体です。今は展示されていませんが、またいつか、皆さまの前に姿を現してくれるかもしれません。または、他のワークショップでお目にかかると良いですね。

長い間楽しませてくれた切頂600胞体を一緒に作った皆様、そして新たに600-120胞体に作り変えてくださった皆様、展示の場をいただいた博物館の大野館長、ご指導いただいたジョージ・ハート先生、立木秀樹先生、塚本靖之さん、ありがとうございました。